

[A年] 聖霊降臨節第21主日(2021年10月10日)**【旧約聖書日課】申命記4章1～8節**

1イスラエルよ。今、わたしが教える掟と法を忠実に行いなさい。そうすればあなたたちは命を得、あなたたちの先祖の神、主が与えられる土地に入って、それを得ることができるであろう。2あなたたちはわたしが命じる言葉に何一つ加えることも、減らすこともしてはならない。わたしが命じるとおりにあなたたちの神、主の戒めを守りなさい。3あなたたちは、主がバアル・ペオルでなされたことをその目で見ただけではないか。あなたの神、主はペオルのバアルに従った者をすべてあなたの間から滅ぼされたが、4あなたたちの神、主につき従ったあなたたちは皆、今日も生きている。

5見よ、わたしがわたしの神、主から命じられたとおりに、あなたたちに掟と法を教えたのは、あなたたちがこれから入って行って得る土地でそれを行うためである。6あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、「この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言うであろう。7いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか。8またわたしが今日あなたたちに授けるこのすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民がどこにいるだろうか。

【使徒書日課】ローマの信徒への手紙13章1～10節

1人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。2従って、権威に逆らう者は、神の定めにくるることになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう。3実際、支配者は、善を行う者にはそうではないが、悪を行う者には恐ろしい存在です。あなたは権威者を恐れないことを願っている。それなら、善を行いなさい。そうすれば、権威者からほめられるでしょう。4権威者は、あなたに善を行わせるために、神に仕える者なのです。しかし、もし悪を行えば、恐れなければなりません。権威者はいたずらに剣を帯びているのではなく、神に仕える者として、悪を行う者に怒りをもって報いるのです。5だから、怒りを逃れるためだけでなく、良心のためにも、これに従うべきです。6あなたがたが貢を納めているのもそのためです。権威者は神に仕える者であり、そのことに励んでいるのです。7すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢を納めるべき

人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。

8互いに愛し合うことのほかに、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。9「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。10愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

【福音書日課】マタイによる福音書22章15～22節

15それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、畏にかけようかと相談した。16そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。17ところで、どうお思いでしょうか、お教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に合っているでしょうか、合っていないでしょうか。」18イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。19税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、20イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。21彼らは、「皇帝のもです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」22彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

【聖書朗読箇所】ルカによる福音書7章11～17節

11それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群衆も一緒であった。12イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出される場所だった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。13主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。14そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。15すると、死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。16人々は皆恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の間に現れた」と言い、また、「神はその民を心にかけてくださった」と言った。17イエスについてのこの話は、ユダヤの全土と周りの地方一帯に広まった。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

申命記4章1～8節

1イスラエルよ、今、私が守るように教える掟と法に耳を傾けなさい。そうすればあなたがたは生き、あなたがたの先祖の神、主が与える地に入り、これを所有できるであろう。2あなたがたは、私が命じる言葉に何一つ加えても、削ってもならない。私が命じるとおり、あなたがたの神、主の戒めを守りなさい。3あなたがたは、主がバアル・ベオルでなされたことをその目を見た。あなたの神、主はベオルのバアルに従った人をすべて、あなたの中から滅ぼされた。4しかしあなたがたの神、主に付き従ったあなたがたは皆、今日も生きている。

5見よ、私はあなたがたに掟と法を、私の神、主が命じられたとおりに教える。あなたがたが入って所有する地でそれを行うためである。6あなたがたはそれを守り行わなければならない。それは、もろもろの民が目にするあなたがたの知恵と分別であり、彼らはこれらすべての掟を聞き、「この大いなる国民は、知恵と分別の民にほかならない」と言うであろう。7私たちの神、主は、私たちがいつ呼びかけても近くにいてくださる。このような神を持つ大いなる国民が、果たしてほかにいるだろうか。8また、今日、あなたがたに与えるこのすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民が、ほかにあるだろうか。

ローマの信徒への手紙13章1～10節

1人は皆、上に立つ権力〔別訳→権威〕に従うべきです。神によらない権力はなく、今ある権力はすべて神によって立てられたものだからです。2従って、権力に逆らう者は、神の定めにくるくことになり、背く者は自分の身に裁きを招くこととなります。3実際、支配者が恐ろしいのは、人が善を行うときではなく悪を行うときです。権力を恐れず、いたいと願うなら、善を行いなさい。そうすれば、権力から褒められるでしょう。4権力は、あなたに善を行わせるために、神に仕える者なのです。しかし、もし悪を行えば、恐れなければなりません。権力はいたずらに剣を帯びているわけではなく、神に仕える者として、悪を行う者に怒りをもって報いるからです。5だから、怒りがおそろしいからだけでなく、良心のためにも、これに従うべきです。6あなたがたが税金を納めているのもそのためです。権力は神に仕える者であり、この務めに専心しているのです。7すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。税金を納めるべき人

は税金を納め、関税を納めるべき人には関税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。

8互いに愛し合うことのほかは、誰に対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。9「姦淫するな、殺すな、盗むな、貪るな」、そのほかどんな戒めがあつても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。10愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

マタイによる福音書22章15～22節

15その頃、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉尻を捕らえて、罠にかけようかと相談した。16そして、その弟子たちをヘロデ党の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、誰をもはばからない方だと知っています。人に分け隔てをなさらないからです。17ところで、どうお思いでしょうか、お答えください。皇帝に税金を納めるのは許されているでしょうか、いないでしょか。」18イエスは彼らの悪意に気付いて言われた。「偽善者たち、なぜ、私を試そうとするのか。19税金に納める硬貨を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、20イエスは、「これは、誰の肖像と銘か」と言われた。21彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」22彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

ルカによる福音書7章11～17節

11それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群衆も一緒であった。12イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、担ぎ出されるところであった。母親はやもめであって、町の人が大勢そばにつき添っていた。13主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。14そして、近寄って柩に触れると、担いでいた人たちは立ち止まった。イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。15すると、その死人は起き上がったものを言い始めた。イエスは息子を母親にお渡しになった。16人々は皆、恐れを抱き、「偉大な預言者が我々の間に現れた」と言い、また、「神はその民を顧みてくださった」と言って、神を崇めた。17イエスについてのこの話は、ユダヤ全土と周りの地方一帯に広まった。

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・10月10日「聖霊降臨節第21主日」の日課主題は「上に立つ人々」。旧約聖書日課は、「申命記」から、モーセがホレブ山(シナイ山)以来の40年の出来事を振り返った後、いよいよ最後の勧告として語り始める冒頭部分の箇所。使徒書日課は、「ローマの信徒への手紙」から、キリストによって新しい生活を始めた者たちが、教会外の最たる敵対勢力とさえみなされることのあった世俗権力も含めた「隣人」への向き合い方を教える箇所。福音書日課は、「マタイ福音書」の受難物語の中から、神殿における論争の一コマで、ファリサイ派の人々の仕掛けた納税問題に対して主イエスが応じられた出来事の箇所。

・当日は、10月第2主日「神学校日」で、ゲスト説教者を迎えるため、主日礼拝では指定の聖書箇所「ルカ福音書7:11~17」を朗読する。

旧約日課(申命記4章より)

・「申命記」は、ヘブライ語正典「律法」の第五巻で、「モーセの出エジプト物語」を完結する文書。主要部は、モーセがエジプトから連れ出して40年の荒野の旅を共にしたイスラエルの民を前に、これまでの歩みを振り返りながら、「教え」の再確認をする「訣別説教」の様式で叙述されている。ただし、結部28:69以下には、モーセの死までを物語る「モーセ物語」としての最後の叙述が置かれ、物語が正典「預言者」中「前の預言者」の第一巻「ヨシュア記」に接続するように整えられている。

・日課箇所は、この後に述べられていく「教え(シエマー)」全体の位置づけをあらかじめ明示する「導入部」として置かれているが、その趣旨は、「出エジプト記」で描かれる「シナイ契約」(19~24章)を再確認することである。冒頭に、これから告げる「教え」が「掟(コーケ)と法(ミシュバト)」の二つの言葉で言い表される事柄であるとなっており、これは、「出エジプト記」24:3「モーセは…主のすべての言葉とすべての法を民に読み聞かせ…」に相当する。「出エジプト記」において「主のすべての言葉とすべての法」とは、同20:1「これらすべての言葉(ダーバル)」として提示されるいわゆる「十戒」と、同21:1「以下は、あなたが彼らに示すべき法(ミシュバト)」として提示される諸規定のことである。この「主の…言葉」は、同34:28「十の戒め(デバリム←ダーバルの複数形)からなる契約の言葉(ダーバル)」に相当する。なお「申命記」で「掟」と訳されている「コーケ」は、「出エジプト記」では「定め」とも訳され、「過越」を含めて神の御業の出来事を記念する儀式等の規定を指して用いられている。

・日課箇所、この「掟と法」を守るべき理由は、「諸国の民」にその姿が示され、主の御業が知られるようになるという宣教的意義づけで告げられている。これは、「出エジプト記」19章以下でも同様である。

使徒書日課(ローマ13章より)

・「ローマの信徒への手紙」は、使徒パウロの書簡集の第一に置かれ、もっとも重要な書簡として扱われてきた。ただし、これはパウロの神学論文ではない。パウロはこの書簡を、ローマの教会に宛てて記しているが、執筆の目的は、未訪の同教会に自分の訪問計画を受け入れてもらうことと、訪問後に自分が計画しているエスパーニア伝道に協力してもらえるように要請することである。特に後者の目的に沿って、すでにユダヤ人と異邦人の混成教会として成長していたローマ教会が、さらに異邦人伝道推進に勤しみ、パウロの伝道計画にも協力してもらえるようにするため、異邦人とユダヤ人の双方に共通の救済神学の基礎づけを試みているのである。

・日課箇所は、世俗の権力者に対する態度を教える箇所として、伝統的に「国家と教会」論の典拠の一つとされてきた。すなわち、世俗国家の存在に対して一定の神意を認め、たとえ迫害下にあっても教会は国家権力に抵抗せず、隷従せずとも協力関係にあるべきだとする立場の聖書論とされてきた。M.ルターの「二王国論」も、ここを一つの論拠としている。近代聖書学者は、日課箇所のような国家権力に迎合するかに見える初期教会の態度は、当局による教会への直接的迫害が始まる中で自分たちの集団が当局にとって危険な存在ではないことをアピールする目的で強調されたものであると解釈することが一般的であるが、そこには上述のような「教会と国家」観に対する批判的評価が先に働いており、注意が必要である。日課箇所と並んで同様の「教会と国家」観を示す文書として「ルカ文書」(福音書と使徒言行録)が挙げられるが、パウロ書簡とルカ文書に共通するのは、絶対的な神中心主義神学に徹していることで、国家権力の営みや教会にとって都合の悪い「迫害」の出来事なども含めて被造世界のすべての営みが神の計画遂行の中に織り込まれているという摂理観に立っている。

福音書日課(マタイ22章より)

・日課箇所は、「受難物語」中、一連の「神殿での論争」において「皇帝への税金の是非についての問答」が物語られる箇所、前週福音書日課(21:18~32)の場面に接続する設定で置かれており、設定も共観福音書で共通する。

・共観福音書は、細かい設定に相違があるが、問答の進み方や主イエスの言葉について、ほとんど一致した伝え方をしており、重要な変更点は見られない。おそらく主イエスの語録伝承としても普遍性の高い最古のものの一つなのだろう。ここでの主イエスの応答は、世俗権力に対する敵対的姿勢がなく、使徒書日課(ローマ13章)の態度と基本的に一致している。

・「マタイ福音書」は、これと共に、「神殿税」についての主イエスの判断も伝えており(17:24以下)、権威・権力に対するより一般化された姿勢を強調している。

聖書朗読箇所(ルカ 7 章より)

・聖書朗読箇所は、「ナインのやもめ」として知られ、やもめの死んだ息子が復活させられる逸話。「ルカ福音書」で「平地の説教」と呼ばれる(「マタイ福音書」の「山上の説教」に相当する)部分(6:17~49)に続く出来事として設定されている「百人隊長の僕の癒し」の後に置かれた、「ルカ福音書」だけが伝える逸話である。設定された場面として提示されている「ナインという町」は、聖書中ここだけで現れる地名であるが、旧約「エリシャ物語」に現れる「シュネム」とほぼ同じ地域に同定されている。

・「やもめの息子の蘇生」は、旧約の「エリヤ物語」および「エリシャ物語」でも知られる(王上 17 章、王下 4 章)。特に「エリシャ物語」では、「シュネムの女」の逸話として伝えられており、「ルカ福音書」が「ナイン」の設定をした意図が推認される。すなわち、「ルカ福音書」は、主イエスが旧約を代表する預言者「エリヤ・エリシャ」の権威をも継承する存在であると示唆している。・復活させられた息子が「ものを言い始めた」(15 節)という描写は、復活が事実であることの証明ではない。「ルカ福音書」は、「復活」という描写を、「ものが言えなくなっていた者」が「語り始めること」として理解していると考えられる。洗礼者ヨハネの父・祭司ザカリアの逸話(1 章)、主イエスの復活顕現における聖書のとき証し(24 章)、また聖霊降臨から始まる弟子たちの「神の偉大な業を語る」宣教する教会(使徒 2 章)など参照。

来週の誕生日 (10 月 10 日~16 日)

主日礼拝の讃美歌から

- ・21-356 番「インマヌエルの主イエスこそ」(= I 161) は、作詞者アレンドルフは、18 世紀ドイツの牧師で、敬虔派詩人として知られ、J.S.バッハと入れ違いにケーテン宮廷説教者としても務め『ケーテン讃美歌集』を編纂。その中の一曲で、作曲者は不明。
- ・21-507 番「主に従うことは」は、19-20 世紀米国メソジスト派牧師グラント・タラーの作詞作曲。孤児として育ち学校教育をほとんど受けないまま 19 歳で牧師になり、ソングリーダーとしても活動。日本語版は、1923 年版『日曜学校讃美歌』から継承。
- ・21-532 番「やすかれ、わがこころよ」は、18 世紀ドイツのカタリナ・フォン・シュレーゲルによる作詞で、1752 年版『Neue Sammlung geistliche Lieder』に所収。彼女の詳細は不明。この歌詞を、19-20 世紀フィンランドの作曲家シベリウス作曲「フィンランドニア」に基づく曲と組み合わせる収録したのは、1927 年版スコットランド教会讃美歌集で、英語版「Be Still, My Soul」は英語圏で広く歌われている。

21-356「インマヌエルの主イエスこそ」

Einer ist König, Immanuel sieget

1. Einer ist König, Immanuel sieget! / Bebet, ihr Feinde, und gebet die Flucht! / Zion hingegen, sei innig vergnügt, / labe dein Herze

- mit himmlischer Frucht! / Ewiges Leben, unendlichen Frieden, / Freude die Fülle hat er uns beschieden.
2. Stärket die Hände, ermuntert die Herzen, / trauet mit Freuden dem ewgen Gott! / Jesus, die Liebe, versüßet die Schmerzen, / reißet aus Angsten, aus Jammer und Not. / Ewig muß unsere Seele genesen / in dem holdseligsten lieblichen Wesen.
3. Halte, o Seele, im Leiden fein stille, / schlage die Rute des Vaters nicht aus; / bitte und schöpfe aus göttlicher Fülle Kräfte, / zu siegen im Kampfe und Strauß! / Fluten der Trübsal verausschen, vergehen; / Jesus, der Treue, bleibt ewig dir stehen.
4. Zion, wie lange hast du nun geweinet? / Auf und erhebe dein sinkendes Haupt! / Siehe, die Sonne der Freuden erscheint / tausendmal heller, als du es geglaubt. / Jesus, der lebet, die Liebe regieret, / die zu den Quellen des Lebens dich führet.
5. Laufet nicht hin und her, eilet zur Quelle! / Jesus, der bittet: "Kommt alle zu mir!" / Sehet, wie lieblich, wie lauter und helle / fließen die Ströme des Lebens allhier! / Trinket ihr Lieben, und werdet erquicket: / hier ist Erlösung für alles, was drückt.
6. Streitet nur unverzagt, seht auf die Krone, / die euch der König des Himmels anbeut. / Selber der Herr wird den Siegern zum Lohne; / wahrlich, dies Kleinod verlohnet den Streit! / Streitet nur unverzagt, seht auf die Krone: / selber der Herr wird den Siegern zum Lohne.
7. O du Lamm Gottes, da, da wird man sehen / eine gewaltige, siegende Schar / deine unendliche Hoheit erhöhen. / Alles, was Odem hat, ruft: / Er ist's gar! Sehet, / wie Kronen und Throne hinfallen; / höret, wie donnernde Stimmen erschallen.
8. Reichthum, Kraft, Weisheit, Preis, Stärke, Lob, / Ehre Gott und dem Lamme, dem Heiligen Geist! / Wenn ich da stünde, o wenn ich da wäre! / Springet, ihr Bande, ihr Feseln zerreißt! / Amen, die Liebe wird wahrlich erhören. / Alles, was in mir ist, lobe den Herren!

21-507「主に従うことは」

In his steps I follow

1. "In His steps" I follow as I go / On my pilgrim journey here below, / "In His steps" I follow day by day, / Trusting Him to lead the way.
- [Chorus] Gladly in His steps I follow I follow I follow, / Graldly in His steps I follow, / Gladly in His steps I go.
2. "In His steps," what peace and joy I know, / Every day my path doth brighter grow, / "In His steps" His spirit dwells within, / Cleansing me from every sin. [Chorus]
3. "In His steps," I prove His matchless love, / While He leads me to my home above, / "In His steps" tho, pressed by every foe, / I shall conquer all, I know. [Chorus]
4. "In His steps!" how sweet to walk with Him, / Even tho, clouds my pathway often dim, / "In His steps" His smile illumines the way, / And my night is turned to day. [Chorus]

21-532「やすかれわが心よ」

Stille, mein Wille

1. Stille, mein Wille! Dein Jesus hilft siegen; / trage geduldig das Leiden, die Not; / Gott ist's, der alles zum Besten will fügen, / der dir getreu bleibt in Schmerzen und Tod. / Stille, mein Wille! Dein Jesus wird machen / glücklichen Ausgang bedenkllicher Sachen.
2. Stille, mein Wille! Der Herr hat's in Händen; / hält sich dein Herz nur im Glauben an ihn, / wird er den Kummer bald wenden und enden; / herrlich wird endlich, was wunderbar schien. / Stille, mein Wille! Dein Heiland wird zeigen, / wie vor ihm Meer und Gewitter muß schweigen.
3. Stille, mein Wille! Wenn Freunde sich trennen, / die du so zärtlich und innig geliebt, / wirst du die Freundschaft des Höchsten erkennen, / der sich zum Eigentum treulich dir gibt. / Stille, mein Wille! Dein Jesus ersetzt, / was dich beim Sterben der Liebsten verletzt.
4. Stille, mein Wille! Es kommen die Stunden, / daß wir beim Herrn sind ohn' Wechsel der Zeit; / dann ist das Scheiden, der Kummer verschwunden, / ewige Freundschaft vergütet das Leid. / Stille, mein Wille! Nach zeitlichem Scheiden / seh'n wir uns wieder ohn' Schmerzen und Leiden.